



GIRL'S TALK

ゆず農家の浅見さんと豆腐屋の武藤さん、越生町男女共生推進委員会会長の内藤さんが、「子育て×仕事」をテーマに、楽しく真剣におしゃべり。

内藤さん（以下…内藤） 現在の仕事を始めた経緯を教えてください。

浅見さん（以下…浅見） ゆず農家の長男の夫が会社員のため、気づけば私が引き継いでいました。東京出身のため、まさか農家になるとは思っていませんでした。

武藤さん（以下…武藤） 私も義父母が豆腐屋を営んでいて、結婚を機に店を手伝い始めました。下の子を保育園に預けた頃に夫が店を継ぎ、私は店長になりました。



内藤 苦勞したことはありませんか。

武藤 育児サービスを利用したくても、条件が複雑で利用できなかったことに不便を感じました。

浅見 働くママは、常に体調を崩さないように気を張らなくてはなりませんよね。

内藤 ご家族は仕事や家庭に理解や協力がありますか。

浅見 夫が休みの日には、朝から晩まで一緒に仕事をしてくれています。

武藤 私と夫は働く時間帯が違うこともあるので、家事はできる方ができるだけしています。

内藤 分担されているんですね。お子さんはどうですか。

浅見 洗濯物を取り込んでくれたり、料理を手伝ってくれた



PROFILE

浅見しのぶさん(黒山)

越生町最年少のゆず農家。自家農園で収穫したゆずとちみつで作ったジュース「ゆず畑」やマーマレードなどを製造し、農協直売所や町内の商店などで販売。小学5年の子を持つ1児の母。

り率先してやってくれます。最近では、収穫の手伝いもしてくるようになりました。

武藤 休日が夫婦ともに仕事の場合は、私の実家に預けます。子どもたちは楽しみにしてくれていますので、仕事への理解を感じます。

内藤 仕事上で男女共同参画を感じることはありますか。

浅見 仕事に携わる人の多くは男性で、特に決定権を持つ管理職の人たちはいまだ男性ばかりです。そこに女性がいた方がよいと思うので、男女共



森村末子さん、優衣さん

私が仕事で子どもを迎えに行けないときは、夫が行ってくれます。たまに夕飯のおかずを作ってくれた時は嬉しくなりますね。



中能佳奈さん、桃花さん

現在の職場は、家庭優先の考え方が浸透しています。子どもが熱を出したりした時は、帰りやすい雰囲気を作ってくれるので助かります。

私の身近な 男女共同参画

男女共同参画を感じる場面は、生活の中でたくさんあふれているはずです。今回は、学童保育を利用している働くママに、職場や家庭で感じた男女共同参画をお聞きました。

同参画はまだこれからですね。
武藤 それは感じますね。

内藤 女性の視点を生かしていることはありますか。

武藤 観光客は、越生ならではの土産を買って帰りたいのではないかと思います。町外のお客さんが多いこともあり、梅やゆずを使った商品を製造しています。

浅見 梅は梅干しにする方法がありますが、ゆずは各々加工品を作らなければなりません。自分がお土産でほしいものを商品化しています。そこ



PROFILE

武藤恵さん(西和田)

越生こだわりの豆腐屋。店内の接客、パートの出店レアチ学5年と3年の子を持つ2児の母。



に女性の視点を生かしているかもしれません。

武藤 浅見さんの商品も美味しいので、私のお店でも取り扱っています。あとは商品にポップを付けたり、試食を出すのも、女性のお客さんが多いからこそ意識していますね。

内藤 同業の女性同士のつながりはありますか。

武藤 子どもや家庭、仕事の話など、共通の話題があれば、すぐにうち解けられます。今でも休日に会って、おしゃべりしています。女性の強みかもしれませんね。

浅見 女性農家のイベントでは、同じ年代、環境の方ばかり集まるので、勉強になったり、悩みを共有することで楽になったりします。同時に全国には若くして輝いている女性がたくさんいることに気づ

き、刺激になります。

内藤 これからの夢や展望はありますか。

武藤 今のところ息子が豆腐屋を継ぎたいと言ってくれています。その夢を持ち続けられるように商売していきたいですね。

浅見 越生のゆずが梅と互角の特産物として認知されるように、商売の勉強をしていきたいです。

内藤 お二人の話を聞いて、明るく元気に仕事と家庭を両立させていることがわかりました。苦労や努力もあり、それを取り切るタフなパワーも伝わりました。女性が働くということは、男性よりも周りの理解とサポートが必要だと実感しました。ありがとうございます。



INTERVIEW

越生町男女共生推進委員会会長
内藤久美子さん(上台)



学童保育室支援員 島田理恵さん

家事と子育てをしながら昼間は外で仕事もこなす。これはとても大変なことです。今はそんな生活を送るたくましいママさんがたくさんいますよ。



浅野聖子さん、美香さん

学童保育は、私たちが社会で働くうえで欠かせないもので、とてもありがたいです。今後もさらに充実してくれると女性の活躍の場が広がりますね。



イブラヒム恭子さん、アミーラさん

子どもの具合が悪いときは当日でも休みが取れたり、子どもの成長に合わせて勤務時間を増やしてもらえたので、子育てをしながら働いています。